

〔選択科目：小児科〕

1．研修内容

選択科目として小児科を選んだ場合（1～8ヶ月）選択した期間に応じて、豊富な種類の疾患を経験できる。

以下、最高8ヶ月を選択した場合の研修内容を述べるので、それ未満の研修については適宜、指導医の判断のもとで行なわれる。

2．一般目標

小児の特性を理解し、独立して、一般的な小児疾患の診断、治療を行う。
必要に応じて指導医の指導を仰ぐ。

3．行動目標

- (1) 小児の正常な発育発達について理解する。
- (2) 乳幼児期の栄養法についての概要を理解する。
- (3) 患児、家族との接し方を修得し、情報の聴取や療養の指導が的確に行える。
- (4) 小児の全身の診察ができる。
- (5) 発熱、嘔吐、咳嗽など頻度の高い症状以外にも、痙攣、喘息、クループなど小児の疾患全般について、年齢を考慮した的確な診断ができる。
- (6) 処置、治療に関する基本的手技以外にも、広範な手技を実施することができる。
- (7) 適切な検査を選択し、年齢を考慮した上で検査結果の評価ができる。
- (8) 診察所見や検査結果から、おおよその重症度を把握できる。
- (9) 診断に基づき、適切な治療法を選択し治療計画を作成することができる。
- (10) 薬剤については児の年齢、体重、重症度などに応じた投与量、投与経路、剤型の選択ができる。
- (11) 安静、運動制限、食事などについて、患児・家族に療養上の指導ができる。

4．研修目標

- (1) 経験した方がよい主要疾患
 - 1) 必須項目（必修時に経験できなかったもの）
 - ウイルス感染症（麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、突発性発疹）

細菌感染症（溶連菌感染症、頸部リンパ節炎）

呼吸器疾患（咽頭炎、気管支炎、喘息様気管支炎、肺炎、クループ症候群）

消化器疾患（急性胃腸炎、虫垂炎、腸重積）

アレルギー疾患（気管支喘息、食事アレルギー、アトピー性皮膚炎）

川崎病

血液疾患（鉄欠乏性貧血、血小板減少性紫斑病）

栄養代謝疾患（脱水症、肥満）

腎泌尿器疾患（尿路感染症、急性腎炎、慢性腎炎）

神経疾患（熱性けいれん、てんかん、無菌性髄膜炎、発達遅滞）

事故（異物誤飲）

2) 準必須項目

伝染性単核症、化膿性髄膜炎、白血病、1型糖尿病、ネフローゼ症候群、血管性紫斑病、染色体異常

(2) 研修すべき主な診断・検査法

1) 研修内容チェック表の項目

2) 腰椎穿刺

3) 胸腔穿刺

(3) 研修すべき手技・治療法

1) 研修内容チェック表の項目

2) 気管内挿管

3) 心肺蘇生術